

事業概要

1. 木質バイオマスエネルギーシステムの計画立案

①既存施設の視察・調査

(内容) 国内で既に供給熱の利用を実践している事例を視察することにより、即利用可能となる実践的な検討を行う。

②現状確認調査

(内容) 本計画と施設建設地域との環境面に関する調和性を検討するにあたり、大気質、騒音・振動、周辺河川の水質及び地下水の有無について現状把握のための調査を行う。

③計画の総合評価

(内容) 調査、検討した全ての計画立案による総合評価を行い、事業としての有用性を評価するとともに、課題の抽出、整理、克服方法の検討等を行う。

2. 木質バイオマス発電システム計画立案

①原木のカスケード利用による、燃料の安定供給体制の検討

(内容) 原木のA材（良質材）からD材（低質材）までをフル活用するための仕組みについて検討を行う。

②熱電併給型発電施設の運営におけるコストの試算

(内容) 本計画の核となる木質バイオマス発電システムについて、運営の持続性を検討するため、イニシャルコスト及びランニングコストの試算を行う。

3. 熱供給システム計画立案

①熱の供給及び回収に関する計画

(内容) 発電側から供給される熱（蒸気）を熱利用地まで供給するにあたり、熱量、供給インフラ（管路網）、熱交換設備、熱回収方法等の検討を行う。また、熱利用システムのプランを踏まえ仕様を策定し、事業費や経済性を算出するなど、事業の具現化に向けた実施プランの策定を行う。

②整備計画立案

(内容) 供給システムの実施プランに基づき、事業主体の要件の策定や予算の算出、事業実施のスケジュール等を盛り込んだ整備計画を立案する。

4. 熱利用システム計画立案

①熱利用の需要に関する調査及びモデルプランの立案

(内容) 発電施設から供給される熱について、農業を主軸とした地域活性化に資する利用方法について検討を行う。また、熱利用のモデルプランを複数立案することとし、各プランにおける必要熱量の試算を行う。

②熱利用システム内容の検討及び運営コストの試算

(内容) モデルプランから実施プランの策定にあたり、熱利用システム(熱交換ユニット・バックアップ・制御)などについて検討のうえ、必要となるインフラの内容及びイニシャルコスト、ランニングコストの試算を行う。

③運用スキームの検討及び整備計画立案

(内容) 実施プランを具現化するため、事業の管理区分や土地利用の方法、また仕様による事業費や経済性の試算を行うことによる運用スキームを検討する。また、事業主体の要件、実施プランを基にした予算の算出や事業実施のスケジュール等を盛り込んだ整備計画を立案する。